

あやつじ ゆきと
綾辻 行人 さん



撮影・迫田真実

1960年京都市生まれ。京都大学教育学部卒業，同大学院修了。87年に『十角館の殺人』（講談社）で作家デビュー，「新本格ムーヴメント」の嚆矢となる。92年、『時計館の殺人』（講談社）で第45回日本推理作家協会賞を受賞。『迷路館の殺人』『暗黒館の殺人』（講談社）など「館」シリーズと呼ばれる一連の長編が人気を博し，現代本格ミステリーを牽引する役割を果たす。他に『霧越邸殺人事件』『深泥丘奇談』『Another』（角川文庫）などの著作がある。18年度には第22回日本ミステリー文学大賞を受賞。

伝統と尖端の，つまりは古いものと新しいものの，不思議なバランスあるいはアンバランス。それが京都というこの町の，大きな魅力のひとつだと思います。同様の魅力を持った傑作が「京都文学賞」から生まれることを期待しています。

ふじの かおり
藤野 可織 さん



京都市生まれ。同志社大学大学院修士課程修了。出版社勤務を経て，2006年『いやしい鳥』（文藝春秋）で文学界新人賞受賞。13年『爪と目』（新潮社）で第149回芥川賞受賞。同年，京都市文化芸術表彰（きらめき賞）を受賞。14年『おはなしして子ちゃん』（講談社）で第2回ブラウ文芸大賞受賞。16年京都府文化賞奨励賞受賞，他の著書に『ドレス』（河出書房新社），『私は幽霊を見ない』（KADOKAWA），『ピエタとトランジ（完全版）』（講談社）など。

京都文学賞が第2回を迎えることを心から喜んでいます。新しい小説が新しい京都をつくり，新しくなった京都がさらに新しい小説をつくる。この文学賞によって起こるそんな相互作用を，わくわくして待っています。

さわだ とうこ
澤田 瞳子 さん

新たに就任！



1977年京都府生まれ。同志社大学文学部卒，同大学院文学研究科博士前期課程修了。奈良仏教史の研究に携わった後，2010年『孤鷹の天』（徳間書店）で小説家デビュー。翌年，同作で第17回中山義秀文学賞を最年少受賞。12年の『満つる月の如し 仏師・定朝』（徳間書店）では第2回本屋が選ぶ時代小説大賞，第32回新田次郎文学賞を受賞する。16年の『若冲』（文藝春秋）で第153回直木賞候補となり，翌年，同作で第9回親鸞賞を受賞。20年，京都市芸術新人賞受賞。他の著書に『火定』（PHP研究所）（直木賞候補，吉川英治文学新人賞候補）や『落花』（中央公論新社）（山本周五郎賞候補，直木賞候補）など。

古い時代から現代，いや未来まで。京都ほど多種多様な時代が似合う街は珍しいです。そんな自在な場所だからこそ生まれる奔放な作品と「京都文学賞」で出会えることを，楽しみにしています。

もちつき まい
望月 麻衣 さん



北海道出身。2013年から京都に移り住む。同年，インターネットの小説投稿サイト「エブリスタ」で第2回電子書籍大賞を受賞。主婦の友社にて書籍デビューを果たす。『京都寺町三条のホームズ』（双葉文庫）が16年度の第4回京都本大賞を受賞し，漫画化，テレビアニメ化される。近著に、『わが家は祇園の拝み屋さん』（角川文庫），『京洛の森のアリス』（文春文庫），『大秦荘ダイアリー』（双葉文庫），『託された子は，陰陽師!?!』（ポプラ文庫ピュアフル）など。

第1回京都文学賞はたくさんの素晴らしい作品が集まったと聞きました。その成功を受けて決まった，第2回目の開催。私もとても嬉しく思っています。執筆というのは，自分と向き合うことでもあります。ぜひ筆を取って，京都文学賞に応募してみませんか？

もりみ とみひこ
森見 登美彦 さん



1979年奈良県生まれ。京都大学農学部卒、同大学院農学研究科修士課程修了。2003年「太陽の塔」（新潮文庫）で第15回日本ファンタジーノベル大賞を受賞しデビュー。07年『夜は短し歩けよ乙女』（角川書店）で第20回山本周五郎賞を、10年『ペンギン・ハイウェイ』（角川書店）で第31回日本SF大賞を受賞。16年『夜行』（小学館）で第156回直木賞候補。18年秋『熱帯』（文藝春秋）を刊行。第160回直木賞候補に。のち第6回高校生直木賞受賞。他の著書に『四畳半神話大系』（角川文庫）『有頂天家族』（幻冬舎文庫）『聖なる怠け者の冒険』（朝日文庫）など。

京都という街にはまだ知られていない顔が無数にあります。自分の心の目で見ると、自分の惹きつけられる京都を書くのがいいと思います。きっと京都の新しい顔が見つかるはずです。